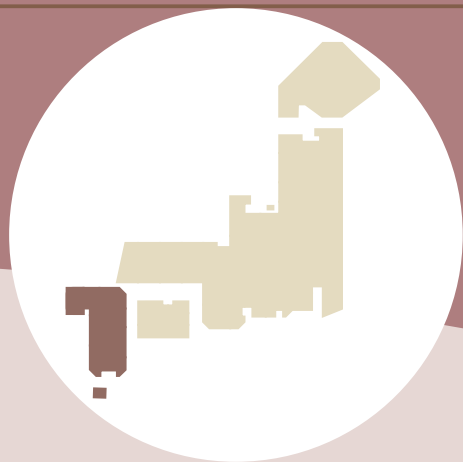


九州・沖縄



p.68 長崎県

角田 瑞枝さん
グラウンド・ゴルフ



p.69 熊本県

竹下 精一さん
ペタンク



p.70 熊本県

中野 順子さん
マラソン



p.71 大分県

堀 正和さん
テニス



p.72 大分県

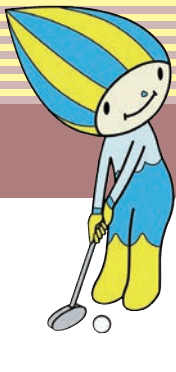
石井 とも子さん
ペタンク



p.73 宮崎県

黒木 豊さん
ゲートボール





グラウンド・ゴルフ

すみだ みづえ
角田 瑞枝さん

福江ナイスイン
(選手)

72歳

● 参加歴：2回目

健康長寿でナイスイン！さらなる挑戦へ

私が住んでいるのは、長崎県の離島・五島列島の福江島です。愛する福江ナイスインクラブには、26名の元気な仲間が在籍し、週に4日楽しく活動しています。その中の6名が、ぎふ大会に参加する機会を得て、貴重な体験と思い出づくりができました。

総合開会式では、夏の甲子園で快進撃を見せた県立岐阜商業高校の野球部をはじめ、若者からの応援など、心こもった多彩なアトラクションのおもてなしを受けました。後半の選手団をまきこんでの郡上踊りには、私たちも女性4人で参加して大いに楽しむことができました。

グラウンド・ゴルフ大会会場の笠松町では、地域の皆様手作りの美味しい鍋料理がふるまわれ、2日間とも、心もお腹も満腹になりました。ありがとうございます。肝心のプレイにおいては、芝でのプレイ経験がなく、特に天然芝では球がなかなか届かずに苦戦を強いられま

した。しかし、同伴プレイヤーの皆様方と励まし合い、賞賛し合いながら、和やかに無事2日間を終えることができました。自分の実力はさておき、「参加することに意義がある」は、なかなか名言だなあと納得したものです。

グラウンド・ゴルフ会場での閉会式では、最高齢者、高齢者表彰を受賞された皆様方のお元気に感動の連続でした。全員背すじがピンと伸びて、階段の昇降も軽やかで、とても90歳以上とは思えませんでした。健康の秘訣は美しい姿勢からと、あらためて気づかせてもらいました。私も腰を伸ばして、胸を張って、健康長寿を目指し、「ナイスイン」の声を響かせながら、グラウンド・ゴルフ人生を謳歌していきたいものだと思います。

本大会の開催にご尽力していただいたすべての関係者の皆様に関心から感謝いたします。特に長崎県すこやか長寿財団の皆様には、細やかで、懇切丁寧な準備から引率まで、大変お世話になりました。また、数年後にお会いできるような腕を磨きます。

こちらでは、毎年10月に「五島列島福江島

グラウンド・ゴルフ交流大会」が開催されます。全国のグラウンド・ゴルフ愛好者の皆様、風光明媚で魚の美味しい長崎県の福江島へ、観光を兼ねていかがでしょうか。心を込めた精一杯のおもてなしを約束します。



チームの仲間と長崎県の幟の前で。
(右から2番目)



ホールインワンを決めて、会心のピースサイン。(右)



ペタンク

熊本なごみ
(監督兼選手)たけした せいいち
竹下 精一さん

75歳

● 参加歴：4回目

最後の正念場で臨んだねりんピック

予選落ちが続いていた私たちにとって悲願のぎふ大会。メンバーはいずれも全国大会出場経験者で、地域のスポーツクラブで練習を重ねています。

出発当日、新幹線に乗車すること5時間、前泊の名古屋入りをし、夕食会場では大好きな生ビール、ひつまぶしをいただき大満足。大会への期待が高まりました。

総合開会式会場の長良川競技場では、高校生の応援団に励まされ、郡上踊りには大勢の選手が飛び入り参加し、圧巻のアトラクションでした。

監督会議では、これまでの試合で顔見知りになった選手たちと再会し、あいさつを交わしました。

会場の養老町は、前日の雨の影響で川砂を敷き詰めたテラン（コート）は湿っていました。

2年前の交通事故で重傷を負ったメンバーの一人は、やっと昨年の春にボールが握れるまでに回復しました。湿ったテランはボールが転がらないので、かなり先にボールを着地できなければ試合運びが難しくなると不安を抱えていました。そこで、ビュット（目標球）が遠くにある時は私が投球し、ビュット権を取ったら近くに投げる、を繰り返し、メンバーが力を出せるよう工夫しました。初戦の青森県は強いチームでいきなり4点を先行されました

が、接戦の末、11対9で初勝利。ほっと一息つくことができました。

2回戦も、テランのコンディションでコントロールが難しかったものの11対0で勝利。3回戦も突破し、翌日の決勝トーナメントに進出が決定しました。

ぎふ大会に出発する前、熊本県ペタンク連盟から対戦相手へのお土産として、くまモンビュットを8試合分、32個預かりました。試合に勝ち続けられれば手土産を渡すことができ、対戦相手との親睦が深められるきっかけになります。あと何チームに配れるかなと思いつきながら、決勝に賭ける意欲が湧いてきました。

順調に勝ち進み、第3位が確定しました。同じ九州のチームだから、と力強い声援をくださる選手の皆さんが見守るなか、迎えた準決勝戦の相手は優勝経験者で強豪の岡山県でした。先取点を取れば勝るとイメージし、一步も引かずチーム一丸となり夢中で対戦しました。4対4の同点からの7メヌ（試合）目、相手チームがポイントを取ったところで、50分の時間切れの合図が鳴り響きました。すべてを出し切りました。

熊本さわやか長寿財団の職員並びに旅行会社の添乗員の皆様には大変お世話になりました。



決勝トーナメントへの出場が決まって笑顔の1枚。(右端)



チーム一丸となって勝ち取った銅メダルを胸に。(右端)



九州・沖縄
熊本県

2025 GIFU
NENRINPIC

マラソン

10km
(選手)

なかの じゅんこ
中野 順子さん

67歳

●参加歴：2回目

「継続は力なり」次は70歳で挑戦したい！

前回のえひめ大会が2位で終わった時、ぜひぎふ大会に出場したいという強い想いに駆られ、練習を積み重ねてきました。ところが、県予選前に入院を余儀なくされ、走る許可が出たのは予選大会1週間前。不安でいっぱいでしたが、優勝して全国大会出場を手にしました。

市民ランナーの私は、フルマラソン、ウルトラマラソン、トレイルランなどに挑戦しています。一人では無理だと思う辛い練習も、心強い仲間がいると乗り越えられます。真夏の練習、高地トレーニング、インターバル……と、まるで大人の部活。さまざまな大会で年代別優勝といううれしい結果を残すことができたのも、きつけれど楽しみながら走っているからだと思います。

ぎふ大会出発の前日まで最終調整を行いました。同じ競技に参加する熊本県選手団の方々も、みっちり走り込みをされて大会に臨まれました。さすがです！

年輪を重ねた全国の精鋭たちが結集する、選ばれた選手しか参加できない大会。ワクワクする気持ちと楽しみたい気持ちを膨らませて総合開会式に参加しました。心をつ一つにして成功させたいという想いが感じられる式典でした。

待ちに待った大会当日。どの大会も緊

張します。皆さんが速く見えます。そんな中、えひめ大会で知り合った友だちを見つけ、近況報告をしながらアップし緊張をほぐしました。こうして何年かに一度の再会を懐かしむことができるのもねりんピックの良さですね。

スタートラインに立ち「ゴールを目指すしかない」という気持ちと、体中からみなぎるアドレナリンのおかげで3位でゴール。上位入賞でしたが、タイムに納得できず落ち込んでいるところへ「すごいね!」「元気もらったよ!」の声。少しずつ気持ちが晴れ、素直に「うれしい。また頑張ろう!」と切り替えができました。

毎年、年齢的に条件が厳しくなりますが、「練習は裏切らない」「練習した分、結果がついてくる」と信じています。座右の銘でもある「継続は力なり」をこれからも実践していきます。

次は、70歳での挑戦。実現できるよう、地道に日々の練習を頑張りたいと思います。そして、このような意義ある大会に多くの人がチャレンジされることを望みます。

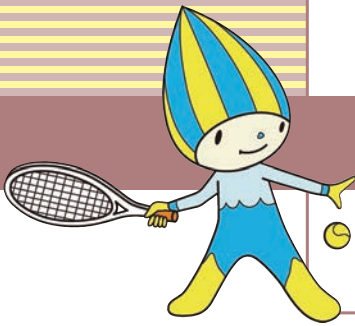
好きなマラソンを続けられるのも理解ある家族のおかげ。感謝でいっぱいです。最後になりましたが、岐阜県関係者の方々をはじめ、熊本さわやか長寿財団の皆様には心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。



3位でゴール。
完走証をいただきほっと一息。



出発当日、熊本県選手団メンバーと。(前列右)



テニス

大分べらぼうどんこ隊
(選手)

ほり まさかず
堀 正和さん
77歳
●参加歴：7回目

ねんりんピック7回出場とこれからの目標

Q ねんりんピックの出場は何回目ですか。

A ぎふ大会で7回目です。初めて参加したのは2009年の北海道・札幌大会で、かなり緊張したのを覚えています。どの大会も、華やかな入場行進と工夫をこらしたアトラクションが魅力的でした。

Q 初出場は60歳ですね。

A 初回は還暦で出場し、今年で喜寿を迎え、77歳になりました。出場年齢枠や怪我などの影響で、今回は3組目のパートナーとの参加でした。これからも同じペアで出場を続けられるといいなあ。

Q これまでの成績は？

A 大分県チームの成績は、前回のとっとり大会では「2位グループでの準優勝」でしたが、ぎふ大会のチーム成績は、同じ2位グループでしたが1回戦で敗退してしまいました。

Q 残念でしたね。敗因は何だと思えますか。

A 一番の理由は、相手がべらぼうに強かったことかな(笑)。1位グループに進出した相手は、堂々優勝の岐阜県Aチームでした。

Q 試合の内容はどうでしたか？

A 初日は、前夜の雨で急きょ室内で試合を行うことになり、大幅短縮で選抜1ペアの一発勝

負。2日目は絶好のテニス日和となり、すべてのコートで皆が躍動しているように見えました。我らはハードコートが初体験で、予想以上に球速が速く、あっさり負けてしまいました。

Q ねんりんピックでの交流エピソードは？

A 2012年の宮城・仙台大会の折に、秋田県と対戦した時のことです。ゲームは大分県が辛勝したんだが、別れ際に秋田県の総監督が「5年後にあきた大会があるから、ぜひリベンジしたい」と言うのです。うちの監督はふたつ返事で「分かった」と。それから5年、約束を果たすためにあきた大会を目指して練習を重ね、これが実現したんだよ。直接対決の機会はなかったけれど、これがきっかけで秋田の観光案内をしてもらい、自宅にまで招いてくれました。それからずっと交流は続いています。

Q ぎふ大会はいかがでしたか。

A 幾度も流れた大会だったし、参加できて非常にうれしかった。天候、足の不調のアクシデントを乗り越え、オンコート、オフコートも満喫できました。「ねんりんピックに8度出場している大分県のレジェンドの二人に、追いつけ追い越せ」が今の私の密かな夢です。



練習交歓で島根県チームと対戦。(後列左から3番目)



再会した岡山県チームと交流。(右端)



ペタンク

大分県
(監督兼選手)いし い こ
石井 とも子さん
77歳
●参加歴：4回目

ペタンクが結んだ全国の仲間との交流

私とペタンクとの出会いは1989年、大分県でねりんピックが開催されるのを機に審判員やスタッフの養成が行われ、当時、体育指導員やレクリエーションの事務局をしていた関係で、その講習会に参加した時でした。大会の決勝戦で初めてペタンクの試合を見て、とても感動したことを覚えています。それ以来、大分県にしかなかったペタンク協会に所属し、試合や講習会に参加してきました。

1997年に竹田市でも協会を立ち上げることにになり、レクリエーション協会内で会員を中心に設立しました。会員は少しずつ増え、地元での試合数も増えたことから、大分県ペタンク協

会として独立。九州各県や全国で開催される大会に参加し、ジャパンオープン大会にも参加するようになりました。それを機に日本全国に仲間の輪が広がり、竹田市の大会にも来ていただけるようになりました。互いに研鑽を重ね、良い刺激を受けています。

今年は、5月に愛知県で開催されたジャパンオープン、10月にねりんピックのぎふ大会、11月に大阪で行われた日本ペタンク選手権大会に出場することができました。大阪では3位入賞を果たし、頑張った甲斐があったなあと、これからも体が続く限り挑戦していこうと決意を新たにしました。

ねりんピックは今年で出場4回目ですが、これまでの3回はいずれも他県の選手と同室だったり、食事の際も円卓だったり、落ち着いてゆっくりする間もないまま試合に参加することが多々ありました。予選落ちした時でしたが、開催地からバスで観光地を案内していただいたのは良い思い出になりました。勝ち進んだ大会では観光する暇もなく、近隣を散策することもありました。今回は、帰県時に列車のダイヤが乱れ、運行の遅れから乗り継ぎに間に合わず、ヒヤッとしましたが、これもまた良い経験。今年の大会は充実しており、天国への土産がまた一つできたなあと感謝しております。

今度は東京大会を目指し、頑張ります。



大分県チームの仲間と笑顔の記念撮影。(中央)



ゲートボール

ひゅうが
日向
(選手代表)

くるき ゆたか
黒木 豊さん
74歳
● 参加歴：2回目

全国の仲間と交流する楽しさを伝えたい

ねんりんピック— 30代に目や耳にしたことはあったが、自分には縁がないと思っていた。競技種目もスポーツが主で、運動が生来不得手の自分には大会への参加は遠い存在だった。

ゲートボール— 昭和の終わりから平成にかけて列島で沸騰した高齢者のスポレク。当時、日本中の公園や広場で早朝からにぎわっていた。

この二つがつながって全国大会に出場する機会が巡ってこようとは、「たまるかぁ」と叫びたいくなる喜び (NHK 朝ドラから拝借)。

定年退職後、パートナーに引きずられるように始めたゲートボール。そう乗り気でもなかったが、週に2回、車椅子ゲートボールのメンバーと練習を重ねるうちに面白くなっていった。彼らの技量の高さと巧みな試合運びに、負けてたまるかと小さな闘志が湧いたのも一因か。また、屋外で過ごす時間が持てるのも健康に良いと感じていたから。

始めてすぐに市の大会に、3、4年すると県大会へも出場するようになった。でも、その頃にはゲートボールの競技人口は市・県ともに減少し、公園や広場で競技を楽しむ姿を見かけることはほとんどなくなっていた。ゲートボールは流行の言

葉で“オワコン”の一つだった。

そんな中、県大会への出場チーム数は減少し、メンバーの高齢化で私たちにも勝機が訪れ、複数の大会で上位に入るように。自然と、出場可能性のあるねんりんピックが新たな目標になった。

2023年のえひめ大会に、宮崎県の代表として出場が決まった。4泊5日の大会は期待と高揚感でいっぱいであった。運よく予選リーグを突破したが、決勝トーナメントは1回戦敗退。口惜しい全国大会へのデビューだった。

そして今秋2回目のぎふ大会。前回は少しでも上回れるよう闘志を秘めて臨んだが、予選リーグ敗退。辛い結果となった。まだまだ道は険しい。

交流大会は残念な結果だったが、競技会場や夜の交流懇親会は本当に楽しい場であった。全国から集まった選手仲間とのプレゼントの交換、酒を飲みながらのお国自慢は夜遅くまで続いた。こんなに楽しい交流の場をもっともっと多くの人に伝えたいと思う。

趣味は旅行と読書。まだ行ったことのない土地に文庫を持って訪ねるのが楽しみの一つ。コロナ禍以後、籠の鳥状態で隣県以外は遠くなったが、

ねんりんピックがこの小さな楽しみを叶えてくれた。さあ次回はどこを訪ねることになるのだろう。



念願だったねんりんピック2回目の参加。(左から2番目)



夫婦で出場。妻(手前)が真剣な表情で試技に臨む。